

☆からだで感じるコミュニケーション☆—アフリカンダンスと音楽のワークショップ

高橋京子

2012年11月28日、緑園キャンパスキダーホールにて多文化・共生コミュニケーション学会秋の講演会が行われた。今回は「☆からだで感じるコミュニケーション☆—アフリカンダンスと音楽のワークショップ」というタイトルで、身体を通じた非言語コミュニケーションを学ぶことがテーマであった。今回は、筆者の知人研究者を通して、来日中のナイジェリア人研究者オセムウェンギエィ・オサズワ Osemwengie-ehi Osazuwa 先生を招いての講演会となった。

オサズワ先生は、ナイジェリア出身で、現在ベニン大学シアターアーツ・マスコミュニケーション学科でテクニカルアシスタントを務める。一方で、イゴドミゴドアフリカンダンストゥーループ IGODOMIGODO AFRICAN DANCE TROUP を主宰するダンサー兼ミュージシャンでもある。ナイジェリアの伝統的な踊り、楽器演奏に優れており、2009年に初来日し、立命館大学産業社会学部、早稲田大学オープン教育センターの授業においてゲストスピーカーを務めたり、2010年には立命館大学創始140年・学園創立110周年記念シンポジウム「アールブリュットと私たち—共感する魂と身体」のシンポジストや、第1回アジア・スポーツ人類学会で共同研究「アフリカの伝統的ダンスとブレイクダンス」を発表したりもした。

講演会は2部構成で、第1部は「こころとからだで現代のアフリカを知ろう!」、第2部は「ダンスと音楽でコミュニケーションしてみよう!」という内容であった。

第1部では、出席者にナイジェリアについて知ってもらうため、ナイジェリアの概要、子どもたちの生活の様子などについて映像が流された。ナイジェリアは、正式にはナイジェリア連邦共和国、赤道のすぐ北に位置する国家であり、国名は国内を流れるニジェール川に由来する。主食はヤムイモを中心とする伝統食、ファストフード店では西洋的な軽食を摂ることもできる。ナイジェリアの中央に位置する連邦首都地区のアブジャは1976年に首都と決められた大都市で、中心部分の都市計画は日本人建築家の丹下健三氏によるものである。1976年以前はラゴスが首都であった。オサズワ先生の住むベニンシティは、ラゴスの東に位置し、12世紀にベニン王国の首都として建設された都市である。古くから鉄、真鍮、象牙などの彫刻や装飾品が有名で今日もナイジェリア有数の芸術都市として栄えている。ベニン王室は現在も残っており、王は「オバ」と呼ばれ、民衆の尊敬の対象である。出席者は、あまり馴染みのない国ナイジェリアについて、映像を通して深く知ることができた。また子どもたちの生活の様子では、小学校の英語での授業、クリスチャンの子どもが給食を買って食べる隣で、ラマダンで給食を摂らないムスリムの子どもの様子、家での遊びなどについても知ることができた。家では友だちとかくれんぼしたり、テレビを見たりする子どもたちの様子は、私たちの住む日本と大差なく、アフリカ=貧しい国と言うイメージを払しょくするものであったように思う。

次に、現代のアフリカ文化として、ナイジェリアの伝統的な祭り、国立劇場で夏休みに開催される5歳から18歳までの子どもたち対象の現代演劇やダンスのワークショップ映像が流された。特に後者は今日のナイジェリアの文化振興政策の一環であり、国を挙げて文化振興が行われていることがよくわかった。

次に、本講演会の中心であるダンスへと話題が移った。以下のダンス及びダンス研究が紹介された。

①SWANGE スワンゲ

南東部ティブ族のダンスで、農作物の豊穡、子孫繁栄を祈るように歌う。男女の掛け合いもある社交的なダンスでもある。ベヌエ川の水のように動き、挨拶しあう様子を表現する。身体の柔軟性を効果的に使うことで優雅さを表現している。白と黒の衣装は生命と豊穡を意味し、ティブ族を象徴する色でもある。

②OBITUN オビトゥン

南西部オンド州のダンスである。南西部はヨルバ族の人口が多くこのダンスもヨルバ族に伝わるものである。結婚式のダンスで、結婚前の女性に憑いている悪いスピリット（精霊）をこのダンスによって追い払う。悪いスピリットを追い払った女性 はめでたく結婚するという意味がある。

③BATA バタ

南西部ヨルバ族の儀礼ダンスである。雷の神シャンゴの太鼓と舞踊がモチーフとなっている。神への様々な祈りを込めて踊られるダンスで、宗教性がある。寝ころぶように倒れる動作は、王へのあいさつを意味する。



写真1 第1部オサズワ先生のデモンストレーション

④EZIZA エジザ

ベニン地方の伝統的な戦いのダンスである。ものすごい動きができることを敵に見せつけ、敵を怖がらせるというダンスである。

⑤EKONBI エコンビ

南部エフィク族のダンスである。海の女神の美しさを崇めるという宗教的な意味合いがあり、子どもを授かれるように川の神に祈る。王の戴冠式、伝統的な結婚式、葬式で踊られるダンスである。ダンサーの肩と腰の動きは、美しい川の波を模倣している。手には Ika という川の神のシンボルを持つ。

⑥モーショキャプチャによるダンス研究

今日のナイジェリアにおいては、以前に比べると伝統的なダンスが踊られなくなっている。そのため伝統的なダンスを記録・保存することが重要になってきた。記録・保存の一つとして、モーショキャプチャを利用したデジタル記録の方法があ

る。立命館大学産業社会学部遠藤保子教授や筆者もナイジェリアの伝統的なダンスをデジタル記録・保存し、ナイジェリアでその研究成果を発表したところ、ナイジェリアでもデジタル記録が高く評価された。オサズワ先生は今回このモーションキャプチャによるダンス研究プロジェクトの一環で来日された。

オサズワ先生のデモンストレーションの後（写真1）、代表者が前に出て指導を受けた（写真2）。時折日本語を交えながらの先生のご指導によって、代表者らの緊張もほぐれたようだ。会場からも笑い声が響くワークショップとなった。流れるような足のステップから細かな足のステップ、肩の振動運動など、アフリカダンス特有の動きを代表者らも楽しんでいった。



写真2 第1部ダンスのワークショップ



写真3 第2部映像による解説の様子

休憩後の第2部では音楽についての映像が流された。オサズワ先生の主宰するダンスグループの映像（写真3）、太鼓こ

とば、ナイジェリアから世界に発信された音楽の紹介の映像であった。楽器のワークショップでは代表者は以下の楽器を体験することができた（写真4）。



写真4 第2部楽器のワークショップ

①OLOKUN DRUM オロクンドラム

2個セットで、一方が母、もう一方が子を形成する太鼓である。

②EGOGO エゴゴ

伝統的な鉄製のタンバリンである。

③CALABASH カラバッシュ

ナイジェリアの伝統的なマラカスで、ひょうたんの周囲に玉を付けた網をめぐらせこれを振ることで音を出すものである。



写真5 第2部ダンスの衣装を着てみんなでポーズ

アフリカダンスには必須の楽器、太鼓には太鼓ことばなるものが存在する。ドラマーたちはその太鼓ことばを理解し、「お元気ですか」「おはようございます」というメッセージを伝えることができる。オサズワ先生には太鼓ことばで「ありがとうございます」の実演をしていただいた。



写真6 第2部最後に楽器、衣装もつけてみんなで踊る様子

①スワング③バタ⑤エコンビの3演目の男女の衣装を着用する体験もあった(写真5)。代表者らは初めて着るナイジェリアのダンスの衣装や装飾品に戸惑いもあったようだ。しかし最後には楽器を用いてリズムを奏で、会場の出席者全員でダンスを踊り、会場は一体となってお開きとなった(写真6)。学生のみならず、普段はダンスをご披露いただくことのないコミュニケーション学科の先生方も楽しそうに踊っていらっしゃる様子が大変印象的であった(写真7)。



写真7 第2部思わず会場の先生方も一緒に踊りだす

今回の講演会を通して、出席者たちはナイジェリアという国、そして複雑な動きのダンスや音楽のリズムをこころとからだで理解できたと思う。さらに、日本が援助するアフリカの方が、実は文化政策にも力を入れており、私たち日本は学ばなくてはならないことなどもわかったようである。



写真8 第2部最後に挨拶を述べるオサズワ先生

最後に、今回の開催に対する役員のみなさんの労をねぎらうと共に、ゲスト招へいにあたり大変お世話になった立命館大学産業社会学部遠藤保子教授、相原進非常勤講師に心から御礼申し上げます。



写真9 民族衣装を着たゲストのオサズワ先生